

世界最大の製
薬企業となるス
ミスクライン・

懐かしい思い出である。
LAを去り、私は東大に、
彼はミシガン大に移った。

ラクソ・ウエル
ビーチャム・グ

八四年には一人ともUC
一記念招へい教授制度」と
いう、外部の研究者を一週

間ほど教授として招
く制度を設立し、そ
の一回目に私を選ん
でくれた。

カム（SKBGW）社の研
究開発担当であるタチ・ヤ
マダ氏は、大きさに言えば

ミシガン大で彼は前任のケ
リー教授にちなんで「ケリ
ー記念招へい教授制度」と

命の恩人であり、互いに歩
んだ研究仲間であり、畏友

LAを去り、私は東大に、
彼はミシガン大に移った。

マダ氏は、大きさに言えば

ミシガン大で彼は前任のケ
リー教授にちなんで「ケリ
ー記念招へい教授制度」と

命の恩人であり、互いに歩
んだ研究仲間であり、畏友

LAを去り、私は東大に、
彼はミシガン大に移った。

盟友「タチ」

黒川清

ヤマダ氏は日本生
まれだが、新日本製
鉄の顧問だった父親
の方針で中学まで日
本のアメリカンスク
ールに通い、その後
スタンフォード大、
ニューヨーク大医学
部へと進んだ。米国
立衛生研究所（NI
H）を経て、一九七〇年代

彼は米国でも有数
のリーダーとなり、
多くの日本人研究者
を育てた。帰国した
私のこともいつも気
にかけ、米国での人
脈の維持に手を貸し
てくれた。

後半に私が勤務していたカ
リフォルニア大ロサンゼル
ス校（UCLA）内科に消
化器専門医として移ってき
た。

ある日の主任教授会議で
のこと。私が下血で倒れて
救急に運ばれた時、消化器
専門医の呼び出しで駆けつ
けられたのが彼だった。

大学から民間企業に移る
時は、正式発表の二週間ほ
ど前に電話をもらつた。今
や、同社のトップスリーの
一人だ。彼のような人材が
国際舞台で活躍することを
日本人として誇らしく思つ
ている。（くわかわ・きよ
し＝東海大学医学部長）

日本経済新聞 2000年12月27日(水)